

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(4月ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2018/4/27

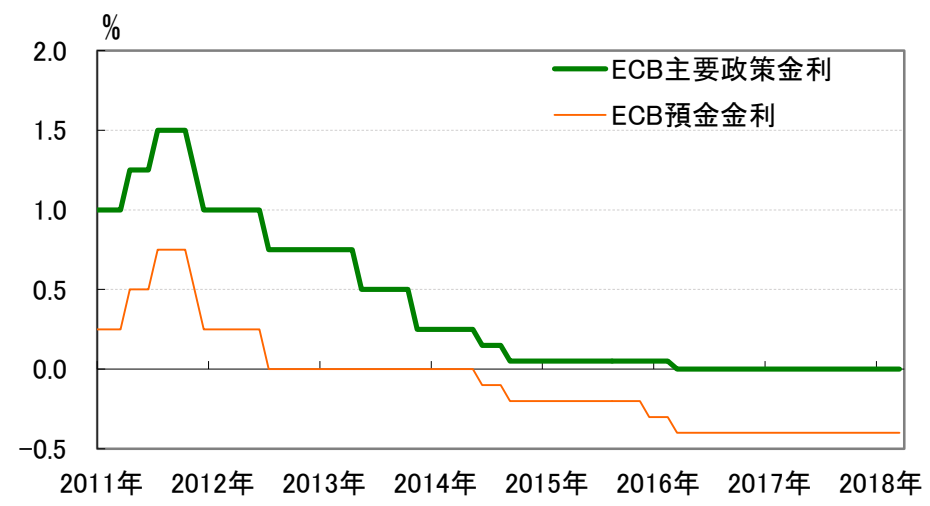
りそなホールディングス 市場企画部

〇概況

- ◆ 政策金利据置き、フォワードガイダンスは変更無し
- ◆ 直近の経済指標は幾分弱含んだが一時的要因の可能性を指摘
- ◆ 今後の焦点は量的緩和期限(9月)以降の方針

- ✓ 3月8日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、政策金利を据え置き、主要リファイナンス金利を0.00%、中銀預金金利は▲0.40%、中銀貸出金利は0.25%とした。
- ✓ フォワードガイダンス（金融政策の方針表）については、変更なし。「資産買入終了後も相当の期間にわたり、政策金利をこの水準に維持する」とした。
- ✓ 景気面では、最近の経済指標は昨年と比べると幾分回復ペースが減速している。この減速は昨年と強い回復ペースの反動を一部反映したもので、一時的要因が寄与した可能性があるとした。
- ✓ 物価面では、物価上昇圧力は依然として全体的に抑制されているが、緩和的な金融政策や景気拡大を背景に中期的には徐々に上昇していくとした。
- ✓ ドラギ総裁の記者会見は、「金融政策自体の議論はしていない」と今後の政策変更に関する言質を与えず、無難な内容となった。市場で量的緩和期限(9月)以降の方針公表が予想されている6月会合に関しても「議論しておらず、時期尚早」と述べた。また1-3月期の弱い経済指標に関しては、「その要因は一時的であり、水準は過去平均以上である」と述べた。また記者から為替のボラティリティ(変動率)についての質問に対しては、「議論していない」とコメントを控えた。
- ✓ 今回の会合ではフォワードガイダンスの修正は無く、またドラギ総裁会見も今後の金融政策に関する言質を与えず、市場予想通り無難な結果となった。早ければ6月会合での量的緩和期限(9月)以降の方針公表が市場では予想されており、今後のECB高官の発言からそのスタンスを窺う。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2018年	2019年	2020年
実質GDP成長率	+2.4	+1.9	+1.7
12月時点の見通し	+2.3	+1.9	+1.7
HICP	+1.4	+1.4	+1.7
12月時点の見通し	+1.4	+1.5	+1.7

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。